

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立金石町小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

住所 〒920-0338

石川県金沢市金石北四丁目1-1

E-mail : kanaiwa-e@kanazawa-city.ed.jp

Website : http://www.kanazawa-city.ed.jp/kanaiwa-e/

児童生徒数：男子 197 名 女子 150 名 合計 347 名

児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- その他（ 地域 ）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

【3年生：私たちの町金石】

[学習の流れ]

- ① 金石に興味を持つ。
- ② 老人会との交流会で、金石の話を聞く。
- ③ 取材をして情報を集める。
- ④ 情報を取捨選択してまとめる。
- ⑤ 学習発表会にて発信する。

[児童の変容]

- ・ 町の中の神社や寺、銭屋五兵衛の銅像など、今まで見過ごしていたものに興味を持ち始め、知らないことを進んで調べるようになった。
- ・ これまで、夏祭りは見ることで楽しんでいたが、悪魔払いの道具を実際に手に取ったり、所作の意味を調べたりしたことで、これまでとは違った視点で捉えることができるようになった。

【4年生：みんなにやさしい街づくり】

[学習の流れ]

- ① 目の不自由な人から体験談を聞く。
- ② 目の不自由な人の生活を調べる。
- ③ 調べたことをまとめる。
- ④ まとめたことを発信する。

[児童の変容]

- ・ 地域の目の不自由な方から実際に体験談を聞いたことで、より現実味を持って話を聞くことができた。
- ・ 目の不自由な人の生活を調べた後、自分の周りの環境のことを考えたことで、金石の町の福祉について関心を寄せるようになった。

【5年生：金石の偉人 銭屋五兵衛】

[学習の流れ]

- ① 金石の「銭屋五兵衛」という偉人を知り施設見学を行う。
- ② 銭屋五兵衛について調べる。
- ③ 地域の「歴史を守る会」の方のお話を聞き、まとめる。
- ④ まとめたことを学習発表会にて発信する。
- ⑤ 全員が、銭五検定を受け、理解を深める。

[児童の変容]

- ・ 見学したり地域の方の話を聞いたりしたことによって、銭屋五兵衛の存在のみならず、金石で何をどうした偉人なのかを理解することができた。
- ・ 学習発表会にて、下級生へ発信することに意識をおき、表現方法を選んだことで、他教科においてもその効果が出てきた。

【6年生：世界の国々を理解しよう】

[学習の流れ]

- ① 世界のいろいろな国々の衣食住、習慣などを調べる。
- ② 調べたことをもとに、日本と比べて、疑問を感じたことを出し合う。
- ③ 疑問に対する自分の仮説を立てる。
- ④ 仮説の検証のために調べ活動を展開する。
- ⑤ 「疑問→仮説→検証→まとめ」の流れで、パワーポイントにまとめる。
- ⑥ 5年生へ調べたことを発表する。

[児童の変容]

- ・日本と異なる習慣や衣食住が存在し、異国では理解できないことでも、その国々では歴史的な流れがあることを理解し、お互いの国を尊重することが大切であるという感想が多く見られた。
- ・発表の手段としてのパワーポイントの使用法を身につけることができ、プレゼンテーションに自信が持てた。

全体を通しての成果と課題

○地域社会とのつながりを意識

歴史や文化が豊かで、スケールの大きい先人を輩出している金石は学びの素材が豊富にある。これらの素材を活かさないことは大変もったいないことであり、各学年とも実態に応じて総合的な学習の時間で地域学習をすすめている。

○段階を追っての意識の変容

子どもたちにきっかけを与えるとすぐに調べたい、見てみたいと意欲に満ちた態度になる。それはまさに金石が好きである証しであると考え。3・4年生は知りたい気持ちが強く、調べて知識を得ることに達成感を見い出している。5年生になると、自分たちが住む金石の偉人を調べ上げ、それを発信することで達成感を見いだしている。6年生になると、これまで総合的な学習の時間で学んできたノウハウを土台にして、自ら課題を考え、調べ、発信することができる。

○ESDカリキュラム作成上の観点

ESDの視点で捉えられているか、活動が子どもたちにとって魅力的であるか、ゴールが明確になっているか、他教科との関連が図られているか、等の点を考慮してカリキュラムに加除修正をし、実態に合わせて、それを作成している。

○ネットワークづくり

3年生では市内、4年生では県内、5年生では国内、6年生では海外とのネットワーク形成が理想である。来年度は、調べたことを、多方面で、幅広く発信していくことができたら良いと考えている。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()